

# 1 【さあ賛美しよう】

さあ賛美しよう 救い主イエスを  
さあ賛美しよう 救い主イエスを

ホザナ たたえよう 賛美しよう救いの岩  
ホザナ たたえよう 賛美しよう救いの岩に

## 罪とがをゆるさる

1. つみとがを赦され 神の子となりたる  
わがたまの喜び くらべうるものなし

※ ひもすがら証しせん よもすがら主をほめん  
み救いはたえなり み救いはくすしと

2. 主のものとなせられし わが身こそ幸なれ  
感謝なき日はなく 賛美なき夜はなし

## 新聖歌391番 みな捧げまつり

1. 皆献げまつり わがものはなし  
永遠(ときわ)に御旨に 従いまつらん

※われ献ぐ 皆献ぐ  
御前に主よわれ 皆献ぐ

2. 皆献げまつり へりくだるのみ  
主よ今この身を 受け入れ給え

## 来たれイエスを礼拝しよう

D Dmaj7 Em A  
来たれイエスを 礼拝しよう

F#m B7 Em A7

## みまえにひざまずこう

Bm C# F#m B7  
何にもかえがたい イエスの臨在

Em A7 D  
今ここに溢れてる

# 5 祈りのガイドライン

1. 賛美と感謝の祈り
2. 悔い改めと主を慕い求める祈り
3. 個人的な願いの祈り
4. とりなしの祈り
5. 日本と世界の平和を願って...

- ・大和カルバリーチャペルと大川牧師ご夫妻のため
- ・瀬戸カルバリーチャペルと倉知牧師家族のため
- ・教会が成長しますように!

- ① 信徒の皆様が恵まれた信仰生活を送り、キリストの似姿に変えられる成熟と祝福に与りますように
- ② 新しい方が来られますように、未信者の方がイエス様を信じ、救われ、洗礼に導かれますように
- ③ 地域の方々に良い証がたてられ、神の国が広がられますように。
- ④ 瀬戸市・愛知県・日本全国・世界宣教のために用いられる教会となりますように。

ある教会の座席に貼られていた紙。  
ソーシャルディスタンスは、  
神様との距離・近さを感じるため!



## 祈りの小径(こみち)

Number:070 瀬戸カルバリーチャペル

「祈りの小径(こみち)」の名称は、愛知県瀬戸市・せともの街の名所「窯垣の小径」と、詩人・八木重吉の作品にある「祈りの路」から名付けられました。各ページにある数字の順に、賛美→聖書→黙想→解説→祈りを致します。

瀬戸カルバリーチャペル Seto LIFE ART Studio

489-0909 愛知県瀬戸市みずの坂 5-64 0561-48-8899  
牧師: 倉知契 kei.kurachi@gmail.com

## 2

### 今日の聖書のことば

ゆっくり読んで黙想しましょう。

創世記15章7～19節

7 また主は彼に言われた、「わたしはこの地をあなたに与えて、これを継がせようと、あなたをカルデアのウルから導き出した主です」。8 彼は言った、「主なる神よ、わたしがこれを継ぐのをどうして知ることができますか」。9 主は彼に言われた、「三歳の雌牛と、三歳の雌やぎと、三歳の雄羊と、山ばとと、家ばとのひなとをわたしの所に連れてきなさい」。10 彼はこれらをみな連れてきて、二つに裂き、裂いたものを互に向かい合わせて置いた。ただし、鳥は裂かなかった。11 荒い鳥が死体の上に降りるとき、アブラムはこれを追い払った。

12 日の入るころ、アブラムが深い眠りにおそわれた時、大きな恐ろしい暗やみが彼に臨んだ。13 時に主はアブラムに言われた、「あなたはよく心にとめておきなさい。あなたの子孫は他の国に旅びととなって、その人々に仕え、その人々は彼らを四百年の間、悩ますでしょう。14 しかし、わたしは彼らが仕えたその国民をさばきます。その後かれらは多くの財産を携えて出て来るでしょう。15 あなたは安らかに先祖のもとに行きます。そして高齢に達して葬られるでしょう。16 四代目になって彼らはここに帰って来るでしょう。アモリびとの悪がまだ満ちないからです」。

17 やがて日は入り、暗やみになった時、煙の立つかまど、炎の出るたいまつが、裂いたものの間を通り過ぎた。18 その日、主はアブラムと契約を結んで言われた、

「わたしはこの地をあなたの子孫に与える。

エジプトの川から、かの大川ユフラテまで。

19 すなわちケニびと、ケニジびと、カドモニびと、20 ヘテびと、ペリジびと、レパイムびと、21 アモリびと、カナンびと、ギルガシびと、エブスびとの地を与える」。

## 3

### 黙想(Life Art Meditation)の時間

(感じたこと・恵まれたことをノートします)

## 4

### みことばの解説



あなたの栄光を示してください！

Show us Your Glory! 出エジプト33の18

空の星を数えさせた神様は、あなたの子孫はあのようにになると約束されました。「彼は信じた」にも関わらず、まだ問答を繰り返します(15の8)。また次の16章を見ると分かるように、子孫を残すために、つかえめハガルを受け入れ、彼女をとおして子どもをもうけるという人間的な手段に出ます。彼は「信仰の父」ですが、「完全な人」ではありませんし、信仰はそのように、ゆっくり成長・成熟してゆくものなのです。

このアブラハム契約における重要な点は、これは神様がプランした契約であり、神様がそれを自ら結び、その責任を自ら負う、というものでした。(契約が結ばれる期間中、アブラハムは眠っていましたので…) 神の約束は、神が成就してください！そこに失望に終わることのない希望があります。

この契約には将来に対する預言も語られました。これから建て上げられる神の民が、どのような悩みを通過するか、そしてその期間がどれくらいか、そしてどのように解放されるか。アブラハム個人+子孫たち(イスラエル)は、切り離されて語られていないことも大切なポイントです。

個人主義の時代に生きる私たちですが、もっと神の民、神の家族、共同体(コミュニティ)の意識を持つことで、より個人が「生きる」ことを覚えます。神様は、過去・現在・未来を御手の中においておられる御方であり、どのような現実にあっても「約束の成就」を忘れていないことを、私たちが忘れないようにしたいと思います。

このアブラハム契約は、神様が主役の契約です。でも、アブラハムにも役割が与えられました。それは、犠牲の捧げ物をもってくること。動物の死体を荒す鳥を「追い払う」ことです(9～11節)。私たちが主に捧げる物を奪われないように、委ねられた奉仕に忠実でありたいものです。またそれは「目を覚まして」祈っている姿でもあります！